

平成28年度 事業報告

自 平成28年4月 1日
至 平成29年3月31日

公益財団法人札幌市公園緑化協会

事業運営の概要

当協会は、設立以来、都市緑化、公園緑地及び自然環境等に関する事業を通して、みどり豊かで潤いのある持続可能な都市づくりを推進し、健全な地域社会の形成と生活文化・福祉の向上に寄与することに努めてきました。

公益財団法人への移行4年目となった平成28年度は、都市緑化の推進、公園緑地や水辺環境等のフィールドの良好な管理と利活用等を通じ、あらためて不特定多数の方々に利益を還元するという使命と責任を意識し、公園アーカイブスの公開に向けた資料収集・整理など、公益性の高い事業の執行と透明性の確保、時代の変化に的確に対応した事業展開に留意してきました。

公1事業では、札幌市都市緑化基金の運用益活用等による民有地緑化と緑化普及啓発事業のほか、ガーデニングボランティアの養成・ネットワーク化の推進を図りました。

公2事業では、モエレ沼公園が札幌国際芸術祭2017のメイン会場の一つに決定し、企画調査を進めてきたほか、新しい緑のセンターがオープンした豊平公園では、センター機能の向上や利活用の促進等に努めました。特に、都市公園等の管理全体では、地域住民の活動拠点としての活用や市民協議会との連携など市民参加・協働を進め、利用者の満足度と公園施設の魅力向上に留意してきました。各公園等では安全・公平・公正を基本として、施設の特性を生かした展示会、観察会、講習会、コンサート等の開催のほか、プレーパークの実施・支援等により子どもたちの自由な遊びをサポートしました。また、大学・研究機関等と連携し、北国札幌の気候・特性に合った植物管理や生物多様性の保全、普及啓発に取り組みました。緑化植物園では緑の相談を実施し、全国屈指の相談（件数）が寄せられ、園芸知識・技術の向上、緑化の普及啓発に努めました。公園内運動施設では、安全で快適な施設の提供とともに、初心者教室や健康運動教室、新規事業としてアスリート向け教室の開催など、公園を活用した市民の健康増進、競技力の向上、スポーツ振興などを通して、地域コミュニティの活性化と公園の利用促進を図りました。

新たなスタートを切った国営滝野すずらん丘陵公園では、公園利用者数、利用満足度、プログラムの提供、情報の受発信など、包括的質の目標を達成することができました。また、豊平川さけ科学館では開館以来の入館者数が300万人を達成するなど、各公園施設で多くの皆さまに利用いただくことができました。

指定管理者の更新を迎えた旭山記念公園は、時代の変化に応じて公園に求められる役割等を再検討し、これまで培ってきたノウハウをベースに魅力ある事業計画を提案した結果、再選定されました。

収益事業については、公益事業の原資となる営業収益の確保のため、季節感と付加価値のある植物販売、ニーズや公園特性に応じた商品構成など、取り巻く状況や環境の変化に的確に対応し、お客様サービスの向上に留意しました。

法人運営全体としては、組織横断的取組の継続と応援体制等の強化、人材育成に努め、コンプライアンスの徹底、安全管理体制の充実、安定的事業展開と将来を見据えた組織体制、財政面での経営改善推進などにより、経営基盤の強化・内部管理の強化に努めました。

公 1 都市緑化基金等事業

札幌市都市緑化基金への募金等造成状況

平成 29 年 3 月 31 日現在

区 分		昭和59年度～ 平成27年度	平成28年度	累 計
(財)都市緑化基金助成		3,000,000	0	3,000,000
札幌市補助金		441,042,884	3,676,222	444,719,106
	助成等	287,174,944	0	287,174,944
	一般募金	153,867,940	3,676,222	157,544,162
当協会への寄付金		27,916,640	223,259	28,139,899
	個 人	1,347,934	50,000	1,397,934
	募金箱	3,729,743	64,617	3,794,360
	企業・団体	12,558,963	108,642	12,667,605
	当協会繰入	10,280,000	0	10,280,000
総 計		471,959,524	3,899,481	475,859,005

今年度「緑の絵コンクール」は、第50回の節目の開催であったことから、作品データが残っていた歴代の大賞作品を掲載した記念作品集を作成し、市内の全小中学校等へ配付した。また、「緑と花のフォトコンテスト」は、応募数が500点を超えるコンテストに成長し、写真の専門家からも市民参加のフォトコンテストとしては、道内屈指であると評価されている。

このほか、平成25年度から継続して北海道新聞社北海道マラソン組織委員会から寄附を頂戴しており、基金の運用益が減少する中であって、有効な活用に努めた。

1 植樹等による民有地緑化事業

(1) 苗木等の配布

植樹機会を誘引するなど民有地緑化の推進を図るため、市民の慶事に際してライラックの苗木346本を配布した。

(2) 壁面緑化の推進

塀や建物を植物で覆うことにより、民有地緑化の推進を図るため、札幌市民に24件129株のナツヅタの苗を補助した。

2 緑化推進に関する普及啓発事業

(1) さっぽろ緑と花のフォトコンテスト

緑化意識の高揚と啓発を図るため、札幌市内の公園・緑地における花や緑、自然とのふれあい等をテーマとしたフォトコンテストを実施した。

応募総数 145人 520点 四つ切り部門 67人 159点

サービスサイズ部門 78人 361点

表彰式 平成28年10月26日 札幌すみれホテル

入賞作品の展示 期間:平成29年3月17日～3月22日

場所:富士フィルムフォトサロン札幌

(2) 緑の絵コンクール

次代を担う子どもたちがみどりに親しみと興味を持ち、理解を深めてもらうため、札幌市内の小・中学生を対象とした絵画コンクールを実施した。

参加37校、応募総数623点

表彰式 平成28年10月22日 ホテルノースシティ

入賞作品の展示 期間:平成28年10月21日～10月25日

場所:札幌地下街オーロラコーナー

※ 平成28年度に実施したコンクール入賞作品と歴代大賞作品を紹介する冊子を作成・配布した。
500部作成。

(3) 園芸等に関する小冊子の発行

北国札幌で植物を扱う上での特徴や楽しさ、花と緑にふれあう環境づくり、また園芸等に関係する高度な知識や技術等について解説する小冊子を作成・配布した。

「すくすくみどりNo.26」(よくみてみよう みちかなみどり)

札幌の緑を引き継ぐ次代の子どもたちに向けて、緑を身近なものとして捉え、興味を抱くきっかけとなるよう、身近な緑をじっくり観察することや、緑を使って遊んだり、つくったりする楽しさのほか、種まきの方法など様々な方向からアプローチした内容。5,000部作成。

3 都市緑化サポーター養成事業

さっぽろまちづくりガーデニング講座

花や緑を通して地域や社会に貢献できるボランティア、都市緑化のサポーターを養成するため、ガーデニング講座を開講した。(実習 10 回・講義 10 回)

実習受講者 20 人(全 10 回継続)、講義受講者延べ 321 人

4 緑を通して地域コミュニティの活性化を促す事業

フラワーポットの貸出し

身近な花と緑の創出、地域の環境改善・美化、地域コミュニティの活性化等を図るため、札幌市内の団体にフラワーポットを 3 年間無料で貸し出した。初年度は花苗と培養土も提供。貸出数 6 団体 191 基(花苗 955 株)。

5 緑のまちづくり活動への助成及び支援事業

(1) さっぽろガーデニング活動事業助成

都市緑化の推進、緑化活動によるコミュニティの活性化等を図るため、市民団体等が行う花や緑を切り口としたまちづくり事業に対して、必要経費の一部を助成する事業を募集した。

※ 助成財源:一般財団法人民間都市開発推進機構(MINTO 機構)からの拠出金

(2) さっぽろ花と緑のネットワーク事務局の運営

花と緑のボランティア活動に携わる方や、自宅でガーデニングを楽しむ方々の相互交流をはかり、活動に役立つ情報を提供するため、「さっぽろ花と緑のネットワーク事務局」を運営し、「さっぽろタウンガーデナー」への登録促進とさまざまな活動等を支援した。

① 登録・更新

リーフレット、ハンドブック等の配布、PR チラシ・ポスターの配布・掲示、またホームページ等を通じて制度のPR活動を行い、随時登録者を募った。

平成 29 年 3 月 31 日現在登録数:団体 35 団体、個人 338 人

② 情報の発信

・ 会報「花と緑のネットワーク通信」の発行

会報を定期発行し、登録ボランティアの活動紹介や関連イベントをお知らせしたほか、その他活動に役立つ情報を発信した。発行回数:4 回(4 月、7 月、10 月、1 月発行)。

・ ホームページ更新

花と緑に関する最新情報のほか、登録団体の活動紹介や活動支援情報の発信等を行った。記事更新:118 回。

・ 広告掲載

さっぽろタウンガーデナー制度の認知を高め、登録者を増やし、ネットワークをより充実したものとするため、道新生活情報誌オントナ及び札歩路(フリーペーパー)への広告掲載を行った。掲載回数:オントナ 6 回、札歩路 1 回。

③ 市役所前コンテナガーデンづくり

参加者のスキルアップのためデザインやメンテナンスの講義・実習を行い、市民による市役所前のコンテナガーデンづくりを行った。10 回実施、延べ 140 人参加。

④ 中島児童会館花壇づくり

参加者のスキルアップのためデザインやメンテナンスの講義・実習を行い、市民による中島児童会館前の花壇づくりを行った。12 回実施、延べ 189 人参加。

⑤ ハンギングバスケット講習会の開催

タウンガーデナーを対象としたハンギングバスケットを作製する講習会を開催した。2 回実施、延べ 49 人参加。作製したハンギングバスケットは大通公園周辺に設置し、都心の緑化に貢献した。このほか、メンテナンス講習会を 1 回実施、10 人参加。ハンギングバスケットを解体後の植物を再活用するリユース講習会を 1 回実施、21 人参加。

⑥ 講習会の開催

タウンガーデナーの知識向上やスキルアップのため、土づくりの基本、秋の剪定と冬囲い、園芸療法入門(全2回)、はじめてのコミュニティガーデンデザイン(全4回)の講習会を開催した。12 回開催、延べ 166 人参加。

⑦ 茶話会の開催

タウンガーデナーの知識向上やスキルアップと同時に参加者間の情報共有や交流のため、春のタネ・苗交換会～種まきのコツ～、「タネだんご」で楽しく種まき！、花を五感で楽しむ～エディブルフラワーとハーブティー～、秋のタネ・苗交換会～プラントハンガーづくり～、ナチュラル素材のリースづくりの茶話会を開催した。5 回開催、延べ 168 人参加。

⑧ 研修見学会の開催

・ コンテナ見学会の開催

タウンガーデナーの知識と交流を深めるため、コンテナ見学会を開催した。40 人参加。

・ 恵み野見学会の開催

タウンガーデナーの知識と交流を深めるため、花と緑のまちづくりに取り組む恵み野のオープンガーデンと商店街花壇についての見学会を開催した。2 回(同日午前・午後)開催、延べ 51 人参加。

・ バスツアーの開催

タウンガーデナーの知識と交流を深めるため、「ゆっくり見学 十勝の 2 つのガーデンをめぐる」と題したガーデン・緑地等を巡るバスツアーを開催した。31 人参加。

⑨ 集会イベント(フォーラム)の開催

「さっぽろ花と緑のまちづくりフォーラム 2016」を開催し、恵み野花のまちづくり仕掛け人、内倉真裕美氏による基調講演のほか、ボランティア団体代表などを交えたパネルディスカッションを行った。167 人参加。

⑩ 広報イベント(パネル展)の開催

「さっぽろ花と緑のネットワークフェア」を開催し、「さっぽろ花と緑のネットワーク」の取組や、登録ボランティアの活動を PR するためのパネル展示及びクイズラリーを実施し、活動の様子をスライドで紹介、併催イベントとして初日はフラワーアレンジメントのデモンストレーションを開催、両日ともスタッフ手作りの押し花でしおりやコースターなどの作品をつくる体験コーナーを実施した。

期間:平成 29 年 3 月 8 日～3 月 9 日

場所:札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)

⑪ 技術指導講師の派遣

花と緑のボランティア団体(登録団体)やタウンガーデナーが所属する一般団体(町内会など)で開催する講習会等へ、技術指導講師の派遣を行った。5 回実施、延べ 78 人参加。

公 2 指定管理等公園施設事業

1 公園緑地、自然環境及び都市緑化等に関する調査・研究

公園緑地における自然環境及び生物多様性の保全を図るため、生物・植物等の調査を実施するとともに、外来生物などの課題について地域全体の問題として捉えて啓発を図った。

(1) 大学、研究機関との連携による生物及び環境等の調査・研究

生物多様性の保全と自然の恵みを将来にわたり享受できる社会の実現、また持続可能な利用を推進するため、公園緑地等における現状や課題を把握すべく調査研究を行った。特に、ライラックなど植物の付加価値を高めることにより、より魅力ある公園づくりを推進するため、また、持続可能な芝生管理に向けて研究機関と連携して調査・研究を進めた。

また、酪農学園大学と締結している「連携と協力に関する協定」に基づき、公園内の外来生物問題に関する調査等を継続して実施した。

このほか、大学の研究者や研究機関等と連携して自然環境等の問題について取り組み、改善に向けた対応策を検討・実施するなど、市民への啓発を図った。

(2) 環境教育を通じた生物の調査及び報告展・報告会の開催

次代を担う子どもたちによる生物調査プロジェクトとして、研究者等の指導により調査・研究を実施し、報告展・報告会を開催した。これら長年の活動が認められ、さっぽろ環境賞をはじめ、複数の賞を受けた。

(3) ボランティアとの協働による園内生物の調査及び報告

公園登録ボランティア等と協働で、公園緑地内の植物や生物の調査を実施し、報告を公表するなどして、市民への啓発を図った。

(4) 緑及び魚類等水生生物の調査・研究

都市公園における芝生の土壌管理に関する技術開発研究として、刈草の処理が芝生の窒素循環に与える影響について、百合が原公園など複数の公園で調査を実施した。

また、札幌市内の河川等において、水生生物の生息状況の把握と水辺環境の保全等を目的とした調査を実施し、調査結果を公表した。

このほか、さけ科学館が事務局を務める「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」では、新たにバスツアーを開催するなど、引き続き市民参加による豊平川の野生サケ保全活動に取り組んだ。

2 公園緑地及び自然環境等に関する施設の管理運営

公園施設等において、安心・安全・快適な利用環境の確保、質の高いサービスの提供など、適正な管理運営により魅力の向上に努めた。また、緑化相談や園芸講習会など、都市緑化を推進・サポートする専門性の高い事業を実施した。

(1) 安全及びホスピタリティの充実

見どころやイベント、園芸・緑化情報などについて、リーフレット、チラシ、ポスター、ホームページ、札幌市広報誌、マスメディア等への情報提供など、様々な手段で発信・提供した。特に、公園施設のイベント・展示会・講習会等の開催情報をまとめて紹介する「さっぽろ公園だより」を定期的に発行して広く配布・公開した。また、緑豊かで美しい公園景観の魅力を広く伝えるため、計 12 公園で「ガーデンアイランド北海道 2016」に登録し、北海道における花と緑のネットワークづくりに貢献した。こ

のほか、Facebook や Twitter などの情報共有ツールを活用して情報発信の効果を高め、誘客につなげた。

また、誰もが安心して公園施設を楽しむことができるよう、バリアフリー化・ユニバーサルデザイン化、ハザードマップの作成、AED の設置、救命講習受講、緊急時の対応訓練等を実施したほか、窓口などで利用者と接するスタッフについては、接遇検定の受検を進め、ホスピタリティの一層の充実に努めた。

(2) 開かれた公園管理の推進

市民参加・協働による開かれた管理運営を推進するため、花壇の維持管理やイベントの企画・運営等について、ボランティアや地域住民、関係諸団体等と連携して実施した。

また、公園施設の利用の活性化、市民の活動の場や生きがいの創出、公園を中心とした地域コミュニティを活性化するため、公園施設の利活用協議会等を設置するとともに、利用者アンケートやモニター制度等により市民の声を管理の改善に役立て、より魅力的な公園づくりを進めた。

このほか、公園施設の管理運営計画に記載した提案を確実に実行するため、自己評価と外部委員の検証による「公園マネジメント評価システム」を構築・運用した。

(3) 都市環境の保全及び改善

HES(北海道環境マネジメントシステムスタンダード)の認証を受け、構築した EMS に基づき、公園施設等におけるエネルギー使用量の削減や資源の有効活用など、環境に配慮した取組に努めた。特に維持管理過程で発生した剪定枝や刈草等の植物廃材をチップ化・堆肥化したほか、各種工作教室等の素材として再利用するなどした。

また、市民参加・協働により公園内の生物多様性の保全と普及啓発を図るため、外来生物の駆除イベントや樹林管理のワークショップ等の環境教育プログラムを企画・実施したほか、札幌市生物多様性活動拠点施設に登録している 4 施設では、生物多様性に関する展示や情報発信を行ったほか、札幌市の「いきものつながりクイズラリー」事業に協力した。

(4) 体験学習プログラム等の実施

自然、生物、歴史など、公園施設の魅力の発信と、身近な環境や緑化の大切さ、公園緑地に対する愛着の醸成を図るため、各種観察会や体験講座等を企画・開催した。特に CISE(ちせ)ネット[科学系博物館等の連携による実物科学教育推進事業]に実施機関として参加した。このほか、公園施設で職場体験、博物館実習等を受け入れた。

(5) 公園施設の特性を生かした展示会及びイベント等の開催

園芸植物、自然、文化などの資源を生かした各種展示会やイベントを開催したほか、愛犬家のマナー向上を目的として、「愛犬といっしょの公園散歩講座」の開催や、札幌市による「リードをつないで楽しくお散歩キャンペーン」に計 15 公園で協力した。

(6) 植物及び自然等に関する知識・技術の普及

緑化技術・知識の向上、自然等に関する普及啓発を図るため、各種園芸講習会や生物の飼育展示の企画・開催、専門スタッフによる緑の相談を実施した。また、外部からの要請に応じて、花や緑、自然等に関する講義や講習等に職員を講師として派遣した。

(7) 北国札幌の気候風土に適した植物管理

札幌の気候風土に適した植物を管理し、管理手法も含めた提案を行い、啓発を図った。また公園樹の健全な育成を図るため、樹木管理計画に基づいて適正な管理に努めたほか、稀少植物の保護やその啓発に取り組んだ。

特に、百合が原公園のユリ、川下公園のライラック、平岡公園のウメなど、テーマ植物を有する公園においては、海外との連携や、高度な知識・経験・技術に基づいた品種の導入・育成・管理等を進め、公園の価値と魅力をいっそう高めることに努めた。

3 公園緑地等におけるスポーツ・余暇活動及び健康の維持増進に関する事業

公園緑地を市民の健康増進の場として位置付け、運動教室や初心者講習会、競技大会などを企画・実施し、利用促進を図った。また、プレーパークや昔遊び等の外遊び企画を実施した。

(1) 健康づくり及び体力の増進

公園緑地や園内施設が市民の健康維持と体力増進の場となるよう、適正な環境整備を行うとともに、ノルディックウォーキングやヨガなどの講習会や、各種の運動教室等を企画・開催し、市民の健康づくりを推進した。

(2) プレーパーク等、外遊びの推進

子どもたちの心身の健全な発達と自由な外遊びの場づくりのため、地域や関係団体のほか、札幌市子ども未来局と連携してプレーパーク事業の推進・普及に努めた。また、子どもの外遊びにつながる取組として、竹馬、ソリの無料貸出のほか、イベント時に昔遊びを紹介するなど、外遊びの推進を図った。

(3) スポーツを通じた交流及び競技力の向上

スポーツを通じて市民の交流と競技レベル向上を図るため、パークゴルフ交流大会など、各種の大会、講習会等を企画・開催した。

特に厚別公園では、新たに(一社)A-Bank 北海道と連携した自主事業として、AAA (Atsubetsu Athlete Academy)を設立し、トップアスリート等の指導の下、競技力向上と人間育成をテーマに、小学生を対象とした陸上クラブの活動を開始した。

各公園施設における取組

大通公園・創成川公園

1 普及啓発・利用促進事業等

ボランティア等との協働の推進により、歴史的・文化的財産の共有・発信とまちなかの憩いの場としてクオリティの向上に努めた。また、北国の特性と季節感のある植物管理を進めるとともに、タイムリーな情報発信など、うるおいとやすらぎのある公園管理に取り組んだ。

(1) 市民や観光客への情報発信と「おもてなし」

自主事業として「大通公園インフォメーションセンター&オフィシャルショップ」を運営し、公園を訪れる方に様々な情報を提供する拠点として、年間約 1.1 万人の利用があった。

ボランティアが公園や札幌の歴史、樹木、彫像などを解説する「公園ガイド」は、市民の公園に対する愛着心の醸成のほか、観光客も対象として、さっぽろ雪まつりの期間も含めたガイドを行い、四季を通じた公園と札幌の魅力の発信に努めた。

(2) 体験型利用の促進

大通公園では、大型イベント会場としての利用のほか、公園本来の利用促進として、竹馬、自然素材を使ったクラフト、そり遊び、冬期スポーツ体験(雪と遊ぼう、ウィンタースポーツフェスティバル)などを企画・実施した。また、創成川公園では、七夕飾りやハロウィンランタン、スノーキャンドルなどの製作体験を実施し、札幌市民だけではなく、新たな体験を求める海外観光客等の参加につなげた。

■自主事業による開催イベント一覧

大通公園	日数・参加者数	創成川公園	日数・参加者数
①どんぐりクラフト	3 日 183 人	①公園まるわかりガイドツアー	7 日 134 人
②竹馬無料貸出	193 日 598 人	②ライラックまつり	2 日 50 人
③バラフェスタ	2 日 100 人	③ライラックガイドツアー	2 日 29 人
④くじらの森遊びの会 七夕会	1 日 100 人	④アートフェスタ	3 日 90 人
⑤こどもサマーテーリング(共通)	27 日 25 人	⑤こども彫刻清掃ボランティア	1 日 4 人
⑥こどもバラボランティア体験	15 日 6 人	⑥こどもサマーテーリング(共通)	27 日 25 人
⑦公園ツアー	1 日 40 人	⑦七夕まつり	1 日 100 人
⑧くじらの森遊びの会 忍者修行	1 日 48 人	⑧ハロウィン	1 日 500 人
⑨雪まつりガイド(ボランティア)	5 日 180 人	⑨まち灯りスノーキャンドルづくり	2 日 300 人
⑩雪と遊ぼう in 大通公園	2 日 3,197 人		
⑪そり山(そり無料貸出)	21 日 504 人		

2 市民参加・協働等

登録ボランティア及び企業・団体などのボランティアに対して適切な活動支援を行い、年間を通じて市民参加や協働の推進に努めた。また、創成川公園・狸二条広場の活用について、狸二条広場運営協議会と連携を図り、イベントの共同開催、公園の防犯パトロールなどを実施した。

近隣地域との連携の取組として、今年度で 6 回目となる「大通公園・創成川公園利活用協議会」を開催した。近隣の町内会、学校、施設等に公園運営への理解を深めていただき、指定管理者との協力体制、情報交換、事業の相互協力などが進められた。

■NPO・ボランティア団体との連携による開催イベント一覧

大通公園	日数・参加者数	創成川公園	日数・参加者数
①ベンチ塗装プロジェクト	2 日 120 人	①サンキューフェスティバル(共催)	-
②フェアトレードフェスタ 2016 in さっぽろ	1 日 500 人	②狸二条スノーパーク(協力)	-
③ウィンタースポーツフェスティバル	2 日 3,197 人		

(1) ボランティア活動の支援

企業・団体の清掃ボランティア活動に対する用具等の貸出し、ベンチ塗装プロジェクトのボランティアへの人的支援など、それぞれの活動内容に合わせて適切なサポートを行った。

公園登録ボランティアには、自発的な活動を重視しながら、必要物品の支給や適宜アドバイスをを行ったほか、ユニフォームを貸与して活動の連帯感やモチベーションの向上を図った。

(2) 教育機関との協働

近隣小学校との連携として、児童による花壇への花苗の植込みのほか、植物管理やボランティアの体験の受入れ、児童を対象とした公園イベントのチラシ配布などにより、子どもの公園利用や参加・協働を促進し、公園への愛着心の醸成を図った。

(3) 近隣施設との連携

さっぽろテレビ塔や札幌市資料館などの近隣施設と協力・連携し、円滑なボランティア活動やイベントチラシ配布など、相互に市民活動と広報効果を高めた。

■ボランティア活動一覧

	団体名	活動日数、延べ人数	活動内容
大通公園	①花壇維持管理ボランティア	54 日 延べ 363 人	花壇の維持管理
	②花壇ボランティア (NPO シーズネット)	17 日 延べ 120 人	花壇の維持管理
	③バラ管理ボランティア	38 日 延べ 605 人	バラの管理
	④ガイドボランティア	150 日 延べ 871 人	おもてなしガイドとして公園を案内
	⑤花壇ボランティア	3 日 延べ 144 人	花苗の植え込み(春・夏・秋)
	⑥中央小学校(4年生)	1 日 97 人	花苗の植え込み(夏花壇)
創成川公園	①お助け隊	33 日 延べ 249 人	清掃、除草、イベント運営など
	②植物ボランティア	29 日 延べ 195 人	ライラック等の植物管理
	③花くらぶ	16 日 延べ 57 人	コンテナ花壇の管理

中島公園・豊平川緑地(上流地区)

1 普及啓発・利用促進事業等

公園が有する貴重な資源や市街地に隣接する特性を活用し、また、地域の団体や企業、施設、教育機関等との協力・連携により、季節ごとの魅力づくりの強化に努め、様々な利用者サービスを企画・実施した。

(1) わかりやすく楽しい情報提供

公式ウェブサイトで四季の公園景観の魅力やタイムリーな見どころ情報を提供してPRし、また、イベントの開催により、新たな公園利用者の誘致とリピーターの増加を促した。

(2) 「都心のオアシス」として公園の魅力アップ

地域の団体・市民などが有する優れた知識や経験のほか、周辺の商業施設などが有する特性や資源を公園とつなぎ合わせることで、公園の魅力を一層向上させる取組に努めた。

(3) 歴史ある無形資産の維持・継承への協力体制の確保

「さっぽろ園芸市」、「札幌まつり」、「歳の市」など、これまで中島公園を会場として長年親しまれてきた催し物の維持・継承を図るため、多方面からの協力・支援体制を整え、公園と催事が相互に価値を高めながら札幌の文化と歴史を彩ってきた無形資産の継承に努めた。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	参加人数	イベント名	参加人数
①なかじま桜まつり	200 人	⑥野鳥観察会	3 人
②ノルディックウォーキング講習会	9 人	⑦冬のまちにスノーキャンドルをともそう！	100 人
③キャンドルナイト	40 人	⑧豊平川緑地パークゴルフ交流大会	44 人
④こどもサマーテーリング(共通)	25 人	⑨ラストコールパークゴルフ大会	120 人
⑤見どころ探訪ツアー	25 人		

2 市民協働・地域等

公園内の歴史・文化・スポーツ・教育・管理施設、公園内外で活動する市民団体や民間企業、関係者などが連携した「中島公園地区コミュニティ推進協議会」を中心に、個々の魅力や事業活動をつなぎ合せ相乗効果が生じるような連携イベントを開催し、地域振興を図った。

(1) ボランティア活動の支援

公園内花壇や花木の管理を市民との協働で行い、園内花壇の再整備とフローラルアップを図った。

(2) 近隣教育機関との連携

近隣小中学校の総合学習や職業体験を積極的に受け入れ、清掃や除草作業などの公園維持作業を通して、身近にある緑や公園について知る機会を設けた。

(3) 市民活動・地域連携による相互の充実

公園内で活動する市民団体や企業等の活動成果を紹介し、内容の拡充や新規団体の参画、活動展開の促進を図った。

■協議会・教育機関・ボランティア団体等との連携による開催イベント・事業一覧

団体名	活動日数、延べ人数	活動内容
フローレス 3B の会	26 日 延べ 159 人	旧百花園の花壇・バラ管理等
中島 Kids ガーデン	18 日 延べ 472 人	地域の親子参加による野菜等育成体験学習
山鼻小学校社会実習	1 日 100 人	冬期イベント補助
中島中学校での講話	1 日 職員 1 名	中島公園の歴史とボランティア活動について
中島中学校職場体験・社会実習	5 日 延べ 476 人	清掃、ロウソク加工、冬期イベント補助
静修高校社会実習	1 日 延べ 15 人	冬期イベント補助
第 10 回かもくま祭	2 日 延べ 549 人	児童会館との協働子どもイベント
鴨々川ノスタルジア	2 日 延べ 228 人	鴨々川近隣の団体による懐古イベント
青空画廊の開催	展示 11 日 計 40 点	中島中学校生徒の描いた公園風景画を展示
鴨々川いきもの観察会	2 日 延べ 38 人	川の生物に親しむ子どもイベント
第 11 回ゆきあかり in 中島公園	3 日 延べ 6,000 人	中島公園地域連携による冬の風物詩イベント

3 利用料金収入

豊平川緑地パークゴルフ場(南7条コース・南大橋コース)では、融雪後の早期開放に努めた。また、定期的な草刈、施肥、灌水等の作業、雨天時のコース内排水作業を行うことで良好なコースコンディションの維持に努めた。南 22 条野球場においても草刈作業とグラウンド整備を定期的に行い、快適な施設利用に努め、収入を確保した。

利用料金収入合計 10,457,515 円

(豊平川緑地パークゴルフ場南 7 条コース・南大橋コース・南 22 条野球場)

円山公園

1 普及啓発・利用促進事業等

かつて養樹園があり、多種の樹木を有する公園の特徴を生かして、園内の木の実や剪定枝等を活用したリース作りや木工作体験などを開催した。また、さっぽろ冒険遊びの会との共催で、年間を通じてプレーパークを開催し、子どもたちに遊び場を提供した。このほか、都心に近い立地でありながら自然豊かな公園の特性に合わせて、野生動物に関する学習の機会を増やし、多数の参加があった。

札幌随一の花見の名所として、特に多数の利用者が訪れる火気使用可能期間中については、近隣住民等に迷惑が及ばないよう、地域や関係機関と連携して取り組んだ。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①ちょこっとプレーパーク	1,378 人	⑤こどもサマーテーリング(共通)	25 人
②まるやま野生動物カフェ(5 回)	172 人	⑥こども夏まつり	527 人
③円山のリスを調べよう	15 人	⑦ナチュラルリース作り	123 人
④餌づけについて考える(2 回)	49 人	⑧スノーキャンドル	50 人

2 市民参加・協働等

園内ではリスや野鳥など野生動物への過度な餌付けの影響が懸念されており、この問題への関心・意識の啓発につなげていくことを目的として、専門家や研究者らとともに、野生動物との付き合い方を考える「円山リスの会」を発足し、市民参加による観察会や勉強会、調査を実施した。

また、在来種の保護と外来植物の対策として、維持管理作業の中で特定外来生物のオオハンゴンソウを中心に駆除を実施したほか、ゴボウとイワミツバについては北海道自然保護協会との連携により、定期的な駆除活動を実施した(オオハンゴンソウ 41kg、ゴボウ 779.5kg、イワミツバ 140.3kg を駆除)。

3 利用料金収入

自由広場の利用案内を整備し、公式ウェブサイト等で周知したことにより、新規の利用増につなげた。また、坂下野球場は定期的な整備を行い、特に雨天後のグラウンド状況を改善させ、利用促進に努めた。

利用料金収入合計 713,370 円(野球場、自由広場)

百合が原公園

1 普及啓発・利用促進事業等

フラワーパークとして、ユリを中心とした植物による美しい公園景観を創出した。温室のある緑のセンターでは植物展示会・講習会を多数開催し、市民への緑化普及に努めた。また、職員が季節の見どころを案内する公園ツアーの開催、夏と冬の 2 回のコンサート、公園を題材としたクイズを出題するオリエンテーリング、ガイドボランティア対応のお散歩ガイドなどを開催した。

■自主事業による展示会・講習会・イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①展示会・講習会(58 回)	70,144 人	⑦紅葉まつり	1,200 人
②公園ツアー	11 人	⑧ミモザコンサート	610 人
③プレーパーク	237 人	⑨スノーキャンドル点灯	220 人
④オリエンテーリング	43 人	⑩クリーンアップ	4 人
⑤お散歩ガイド	298 人	⑪ボランティア説明会	7 人
⑥百合が原音楽祭	600 人		

2 市民参加・協働等

(1) ボランティア活動の支援

専属ボランティアコーディネーターを配置し、4 つのボランティアグループの活動を支援して、公園の魅力アップにつなげた。

- ・温室管理ボランティア「ミモザ」 9 人
- ・バラ管理ボランティア「ローズヒップ」 8 人
- ・宿根草管理ボランティア「クローバー」 8 人
- ・公園ガイドボランティア「ガイド」 15 人

(2) 体験学習、実習等の受け入れ

札幌市内の小・中学校や近郊の高校から体験学習等を受け入れ、公園や植物とのふれあいや体験を通じて、公園管理や造園・緑化分野の職業への関心を高めることに努めた。

- ・百合が原小学校の環境学習 15 人
- ・当別高校園芸科の職場実習 2 人
- ・上篠路中学校、北辰中学校の職業体験 11 人

3 緑の相談

花や緑の大切さを認識し、緑を守り育てるための知識を深めることを目的として、温室内で週 2 回、緑の相談を行い、計 2,556 件の相談に対応した。

4 利用料金収入

温室では趣向を凝らした四季折々の植物による展示会や植物の見どころなどを解説し、利用者増に取り組んだ。また、園内を約 12 分で一周するリートレイン沿線の景観を整えて利用増につなげるよう努めた。

利用料金収入合計 12,207,620 円(緑のセンター温室、世界の庭園、リートレイン)

モエレ沼公園

1 普及啓発・利用促進事業等

これまで進めてきたイサム・ノグチ作品としてのクオリティの維持・向上、魅力ある公園づくりと情報発信力を生かし、公園の価値向上に向けて様々な事業展開を図った。(年間入園者数 738,630 人)

(1) 市民や観光客にとって魅力ある公園づくりと情報発信

1) 快適で賑わいある公園利用、イサム・ノグチ作品としてのポテンシャルを生かしたイベントへの対応

園内で開催される年間 15 件の大規模イベントに協力し、公園に賑わいをもたらすとともに、イサム・ノグチ作品としての知名度を高めた。特に 5 年目を迎えた「モエレ沼芸術花火 2016(主催:モエレ沼芸術花火実行委員会)」は、過去最高となる来場者数 2 万人(前年比 2.4 千人増)を記録した。

また、施設等の管理では、作品としてのクオリティを維持しながら、多様なイベントへの柔軟な対応・協力をを行い、魅力ある公園づくりに努めた。

2) 国内外への魅力発信と誘客

これまでの札幌市民への情報発信だけではなく、公式ウェブサイト・Facebook・Twitter など、効果的な情報発信に取り組んだ。また、園内のサクラや各種イベントのほか、旅番組や海外からのブライダル撮影等、様々なメディア取材に対応し、国内外からの誘客に努めたほか、幅広い年齢層への情報発信にも留意し、一層の認知度向上に取り組んだ。

3) 多くの市民が質の高いアートに触れ合える機会の提供

市民が気軽にアートに触れ合える観覧無料の展覧会のほか、作家によるトークイベントやダンサーによる公演等の自主事業を行った。また、ガラスのピラミッドの独特な空間を活用して、アマチュア市民やプロによるコンサートを開催した。冬期には、「札幌国際芸術祭 2017」(主催:札幌国際芸術祭実行委員会、平成 29 年 8 月 6 日～10 月 1 日、モエレ沼公園(ほか市内各所で開催)の広報 PR を目的として、当芸術祭実行委員会事務局と連携してプレイベントを開催した。

自主事業では、質の高いアートを市民に提供するため、札幌国際芸術祭で培った人脈を活用するとともに、積極的な助成事業への応募や企業協賛を募り、費用確保にも努めた。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	観覧・参加者数	イベント名	観覧・参加者数
①モエレの1年展	8,761 人	④モエレのホワイトクリスマス 2016 (コンサート、ワークショップ等)	500 人
②ホーリー・マウンテンズ内なる聖山 へ続く三本の足跡(トレース)	6,962 人	⑤札幌国際芸術祭 2017 プレイベント フィールド・アクション@モエレ沼公園	約 30 人
③ホーリー・マウンテンズ展オープニング イベント 坂本大三郎×大久保裕子×島地保武 新作ダンス公演「三つの世界」	74 人	⑥札幌国際芸術祭 2017 プレイベント アーティストプレビュー「平川 紀道 datum」展 (展示、トークイベント)	約 400 人

(2) 他団体と連携した誘客活動

隣接するサッポロさとらんどとの共催によるウォーキングイベント「第 3 回さとモエウォーキング」(参加者 229 人)を開催し、相互連携による誘客強化を図った。また、中心市街地からの来園を促すため、NPO が運営するサイクルシェアリング事業「ポロクル」のピットとして継続登録を行った。

2 市民参加・協働等

市民が気軽に公園を活用できるよう、NPO やボランティア団体によるイベント開催のほか、サクラの育成や栽培などフィールドを活用した活動を支援した。また、「モエレ沼公園利活用協議会」を開催し、近隣の町内会に公園運営に対する理解を深めていただくとともに、各町内会やボランティア団体からの意見・要望を傾聴し、管理運営の参考とした。

■NPO・ボランティア団体による開催イベント一覧

団体名	活動日数、一般参加者数 (カッコ内は活動延べ人数)	活動内容
モイレ HIDAMARI	38 日、447 人(204 人)	サクラツアー、モエレクラフト、ミニ盆栽づくり、 樹林地管理・観察会等
NPO モエレ沼公園の活用を考える会	4 日、275 人	ふしぎヒコーキワークショップ、ガイドツアー、親子で 楽しむクラシックコンサート、環境づくりワークショップ

3 冬期間における公園活用の促進

冬の公園利用促進のため、日常生活や週末レジャーを楽しむ場として、クロスカントリースキーや冬の散歩コース、ソリ滑り場を設置した。特に散歩コースは整備距離を延長して、利用者の要望に応えた。

また、モエレ山の斜面を活用したイベント「第 7 回モエレ山爆走ソリ大会(主催:札幌市東区スポーツ推進委員会)」の開催に協力し、道内各地から参加者が集うイベントとして定着した。(参加者 57 組 219 人)

4 利用料金収入

テニスコートでは、大会利用に合わせて、フィールドハウス等の開・閉場時間を柔軟に変更して運営に協力し、施設利用の促進を図った。また、日常管理では、老朽化に伴うコンディションの悪化を防ぎながら整備を行い、快適な施設利用に努めた。

利用料金収入合計 20,556,100 円

(テニスコート、陸上競技場、野球場、コインシャワー、レンタサイクル、野外ステージ、ガラスのピラミッド)

川下公園・北郷公園・豊平川緑地(下流地区)

1 普及啓発・利用促進事業等

川下公園の設立目的でもある、「ライラックの普及啓発」と「健康増進」を2本の柱に利用促進事業を実施し、魅力溢れる公園の管理運営に取り組んだ。

(1) 公園の特色を生かした公園づくりと普及啓発活動

1) ライラックを生かした公園づくりや情報発信

第58回さっぽろライラックまつりでは、メイン会場である大通会場において、ライラックの苗木販売、川下公園の広報活動、ライラックの相談会を実施した。

川下会場では、市民参加のステージイベントや地域の園児・児童・学生と連携したライラックをモチーフとしたデコレーションを実施したほか、ライラックの展示会、ガイドツアー、クイズラリーなど、札幌市の木であるライラックを身近に感じていただける事業を展開した。(期間中来園者数約11,000人)

2) 健康増進施設としての活動

スポーツ施設の多い川下公園や北郷公園では、誰もが参加しやすい内容の利用促進事業を実施した。

新規の取組として、ノルディックウォーキングの講習会を5回実施し、幅広い年齢層の参加に努めた。

また、リピーターの多い川下公園、北郷公園のパークゴルフ場では、自主事業として大会を開催し、多くの参加者が交流を深めた。

3) 季節に応じた事業の促進

家族向けの利用促進事業では、入浴施設のある川下公園ならではのバスボム(入浴剤)作りや、子どもたちに人気の木工・ビーズアクセサリ作りなどのイベントで構成するサマーフェスティバルや、公園の自然素材を活用したクラフト作りなど、季節や年中行事に合わせて実施した。

また、夏休み期間に移動天文台車を招致して星空観察のイベントを開催し、子どもから大人まで楽しめる内容となった。

ウィンターフェスティバルでは、スノーモービルでボートを牽引するスノーラフティングが特に好評で、参加者からの要望を受けて、サンダーラフティングボートとして追加で3日間開催し、冬期のアクティビティ拡充と満足度の向上を図った。

冬期間は歩くスキーマコース整備や公園外周路の除雪・圧雪を小まめに行い、来園者の安全と市民の健康増進に努めた。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①水中健康教室	1,603人	⑧川下公園サマーフェスティバル	3,325人
②さっぽろライラックまつり in 川下公園	11,000人	⑨ALL白石おやじの会大運動会	300人
③ライラックガイドツアー	59人	⑩まつぼっくりアート講座	67人
④ノルディックウォーク講習会	23人	⑪川下公園ウィンターフェスティバル	886人
⑤パークゴルフ大会	84人	⑫スノーキャンドル	52人
⑥移動天文台	50人	⑬ウィンタープレーパーク	50人
⑦サンダーラフティングボート	138人	⑭パークゴルフ大会(北郷公園)	200人

2 市民参加・協働等

(1) 市民参加のボランティア活動

札幌市の木であるライラックの花がら摘みを「川下公園ライラックボランティア りらら」の活動として実施し、知識・技術の習得と向上に取り組んだ。

(2) 市民協働の活動

近隣中学校の校外学習の場として、「白石区でっち奉公」を実施し、5校28人の中学生が職業体験を通じて公園管理や緑化事業への関心を深めることに努めた。

また、近隣町内会や教育機関等の関係者の参加により川下公園利活用協議会を開催し、公園管理や活用方法について話し合い、公園と周辺環境の整備に関して、今後も地域として継続的に相互協力することとなった。

このほか、北東白石地区青少年育成委員会による「雪あそびフェスティバル」においてテントの貸出し、雪山作り、雪上ラフティングボートの実施など、近隣の子どもたちの健全な成長に公園として最大限の支援を行ったほか、白石区と地域パートナーシップ協定を締結している「白石区ふるさと会」の活動の一環として、「白石区まち美化プログラム」に参加し、春と秋の2回、白石サイクリングロードの清掃奉仕活動を実施した。

3 調査・研究等

ライラックの普及啓発につなげることを目的として、(独)農業・食品産業技術総合研究機構と連携して、香り成分の分析を実施した。

4 ライラックの継続的な品種管理

約 240 品種に及ぶ川下公園のライラックコレクションについて、現在管理している品種の維持のため、接木による保存のほか、メリクロン(組織培養)栽培に取り組んだ。

また、北海道林業試験場緑化樹センターの協力の下、日本最古とされるライラックを組織培養し、貴重な品種として保存に取り組んだ。

5 利用料金収入

札幌市と協議して屋外施設の開放期間を早め、有料施設の利用促進を図った。

利用料金収入合計 17,425,445 円

(川下公園野球場・テニスコート・パークゴルフ場、北郷公園野球場、豊平川緑地下流地区サッカー場)

豊平公園

1 普及啓発・利用促進事業等

かねてより計画・準備を進めていた緑のセンター新館オープンについて、予定どおり8月に迎えることができ、都市緑化植物園として一層良好な管理に努めた。(緑のセンター来館者数 103,930 人)

(1) 市民緑化の推進を目的としたバラエティに富んだ展示会・講習会の開催

37 年の歴史をもつ植物展示会は、古典園芸から流行の植物、植物を材料にしたクラフトまで幅広い題材を対象として開催した。多くは市内や道内で活動する植物同好会やクラフトサークルの会員の発表の場としても活用しており、市内の園芸文化の普及に重要な役割を果たした。特に新館オープンに合わせた特別展示会として、共催団体を一堂に紹介する「緑のセンターギャラリー展」を開催して栽培品や製作品等を展示し、各団体の周知と活性化を図った。

また、園芸技術、知識、文化の普及を目的として、年間 60 回を超える各種園芸教室・自然観察会を開催した。(参加者数 1,393 人)

- ・展示会(ハーブ、盆栽、きのこ、洋ラン、ギャラリー展等) 31 回 218 日 入館者 85,354 人
- ・園芸教室(家庭菜園、鉢花栽培、冬囲い、病虫害防除、果樹剪定等) 37 回 901 人
- ・自然教室(自然観察会、スライド上映会等) 6 回 91 人
- ・クラフト講習会(アレンジ押し花、あけびクラフト、クリスマスリース、ボタニカルアート等) 23 回 225 人
- ・コチョウラン植え替えサービス 3 回 176 人

(2) 市民、他施設との共同イベント開催

近隣施設、団体と共催イベントを開催し、公園を市民コミュニティの場として活用するよう努めた。

- ・緑のセンターオープニングコンサートの開催(札幌市豊平若者活動センター)

- ・園芸健康教室の講師（豊平区介護予防センター美園）
- ・豊平プールとの連携事業（スポーツ教室）
- ・愛犬といっしょの公園散歩講座 in 豊平公園 22 人
- ・冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう！2017

(3) 緑化情報「緑のセンターだより」の発行

季節の植物や栽培方法などの情報を掲載した「緑のセンターだより」を毎月編集・発行し、2,100 部を札幌市内の緑のセンターや公園、公共施設に無料配布し、公式ウェブサイトでも公開した。北国における植物栽培の手引きとして、ビギナーから愛好家まで幅広く支持された。

2 市民参加・協働等

公園の花壇や緑地、イベントの質の向上と市民による緑化活動の活性化を目的として、ボランティア団体と花壇管理やイベント準備・運営を行った。

- ・豊平公園花とハーブの会 22 日 延べ 292 人 花壇管理、ハーブ展運営、クリスマス展・イベント準備
- ・樹木会 5 日 延べ 12 人 園内低木、花木の剪定管理
- ・ガーデングリラの会 3 日 延べ 28 人 イベント（オープニング、スノーキャンドル）準備等

3 緑の相談

花や緑の大切さを認識し、緑を守り育てるための知識を深めることを目的として、休館日を除く毎日、緑の相談を行い、計 25,210 件の相談に対応した。

4 利用料金収入

利用料金収入合計 1,220,590 円（テニスコート、講義室）

平岡公園・清田南公園

1 普及啓発・利用促進事業等（平岡公園）

梅林の健全な育成と景観の維持・向上のため、積雪寒冷地でのウメ栽培のスキルアップを図り、良好なウメの栽培管理に留意し、清田区ふるさと遺産として平岡公園梅林の魅力アップに努めた。また、園内の豊かな自然を活用した各種観察会等を開催し、環境教育の場としての利用促進に努めた。

(1) 魅力ある公園づくりと情報発信

1) 札幌の花見の名所としての梅林の魅力発信

梅林では、独自の開花予測を公表し、開花後も日々の状況を公式ウェブサイトでリアルタイムに発信したほか、マスメディアへのプレスリリース、取材対応などに力を入れた。（期間中來園者数 114,953 人）

また、利用希望の多い車いすの貸出を梅林で実施するなど、誰もが花見を楽しめる環境の整備に努めた。

2) 市民協働による環境教育の拠点として、自然と触れ合う機会の提供

園内の多様な自然資源を活用し、市民・近隣住民・市民団体・大学等との連携により、環境教育の拠点として充実を図り、住宅地に囲まれた公園の自然景観保全にも努めた。

また、近隣小学校をはじめ、大学や幼稚園の環境教育授業の協力・支援を行った。

■ 自主事業による開催イベント一覧

イベント名	回数	参加者数	備 考
①公園ツアー	6 回	121 人	うち 1 回は酪農大学との共催（カエルツアー）
②へイケボタル観察会	2 回	44 人	

■ボランティア団体との協働イベント一覧

イベント名	回数	参加者数	備 考
①ながぐつの土ようび	7 回	212 人	うち 1 回は参加者なしで中止
②ソリーウォッチング	7 回	74 人	
③にぎわいフェスタ	2 回	119 人	夏・冬

■学校等の授業への協力一覧

学校名	回数	参加者数	備 考
平岡南小学校(3年生)	2 回	222 人	平岡どんぐりの森と協働で対応 春・秋
明星幼稚園(厚別区)	1 回	85 人	ホタル観察
酪農学園大学	1 回	157 人	環境調査・公園管理
札幌市立大学	1 回	30 人	デザイン・公園管理

(2) 他団体と連携した活動

(公財)さっぽろ青少年女性活動協会との共催イベントとして「清田区児童会館 13 館合同イベント あそベンチャー〜あつまれ！青空児童会館 in 平岡公園」を開催した。(参加者数 716 人)

また、ウインターライフ推進協議会との共催で、冬期に雪を利用した遊びとして「雪と氷の自然あそび体験〜雪のおうちグルーを作ろう」を開催した。(参加者数 15 人)。

2 市民協働、地域連携による公園づくり

(1) 市民の参加・協働による地域の活性化を目指して

地域住民とのコミュニケーションの活性化と公園における市民活動の推進のため、ボランティア活動に意欲のある市民を積極的に受け入れた。活動の支援のため、ボランティアコーディネーターを配置し、市民協働による管理運営を進めた。

■平岡公園の活動ボランティア

活動団体名	人数	活動日数、延べ人数	備考
平岡どんぐりの森	14 人	26 日 延べ 235 人	人工湿地管理・環境イベント等
梅ボランティア	6 人	15 日 延べ 60 人	ウメ管理
パークゴルフボランティア	24 人	198 日 延べ 532 人	パークゴルフ場管理

■清田南公園の活動ボランティア

活動団体名	人数	活動日数、延べ人数	備考
清田南公園野球場ボランティア	1 人	—	少年野球場の利用調整

(2) 平岡公園の利活用や環境保全に関する連携

公園の財産である自然環境を保全し、環境教育等への活用を進めていくため、ボランティア団体や大学、研究者等と連携して環境イベントや公園管理を行ったほか、話し合いの場として「はらっぱ会議」を開催し、中長期の方向性を見すえた保全・管理に継続して取り組んだ。このほか、「平岡公園・平岡樹芸センター利活用協議会」を開催し、近隣の町内会・学校・ボランティア団体等に公園の管理運営への理解を深めてもらうとともに、意見・要望等を傾聴して管理の参考とした。

3 利用料金収入

利用料金収入合計 3,013,520 円(平岡公園テニスコート・野球場、清田南公園テニスコート)

平岡樹芸センター

1 普及啓発・利用促進事業等

自主事業として園芸教室・講習会を開催したほか、ボランティアと協働で開催した夏祭り、庭園コンサートは参加者が増加し、地域の恒例イベントとなった。

- ・園芸教室(ツツジ、マツ、オンコ、ブドウなどの剪定等) 29回 582人
- ・クラフト講習会(あけびクラフト) 2回 17人
- ・夏祭り(環境サポーターズ「三次郎の会」と共催) 328人
- ・庭園コンサート(環境サポーターズ「三次郎の会」と共催) 825人
- ・冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう! 2017 176人

2 市民参加・協働等

2つのボランティア団体について適宜、活動を支援し、施設の良い維持と植物の質の高い管理につなげた。また、「平岡公園・平岡樹芸センター利活用協議会」を開催し、近隣の町内会・学校・ボランティア団体等に公園の管理運営への理解を深めてもらうとともに、意見・要望等を傾聴して管理の参考とした。

- ・環境サポーターズ「三次郎の会」 39日 延べ422人
- ・「樹木会」 57日 延べ199人

3 緑の相談

花や緑の大切さを認識し、緑を守り育てるための知識を深めることを目的として、週2回、緑の相談を行い、樹木管理を中心として計1,186件の相談に対応した。

4 利用料金収入

利用料金収入合計 42,700円(講義室)

農試公園・発寒西陵公園

1 普及啓発・利用促進事業等

四季を通じて健康づくりとスポーツを楽しめる公園として、また、多様な利用者や地域住民にとって魅力ある公園となるよう、既存の施設の活用や魅力アップに努め、様々なイベント・講習会等を企画・開催した。また、公園利用に関して情報発信を幅広く行い、利用促進に努めた。

(1) 公園施設の活用推進、イベント・体験講習会等の開催

屋内広場アリーナは、通常のスポーツ等の利用のほか、運動会など多様な持ち込みイベントに柔軟に対応・協力した。その他、交通コーナーを活用した交通安全教室や自転車教室の開催など、公園の資源を生かした利用促進に努めた。また、市民が気軽に参加でき、親子で楽しめるイベントや体験型講習会を多数開催し、体験の場としての公園利用を推進した。

(2) 札幌市民、近隣住民への情報発信

公園の利用情報を掲載した「農試公園だより」を毎月5,000部発行し、市内公共施設のほか、近隣町内会等に配布した。公式ウェブサイトでは利用案内などの基本情報のほか、四季折々の園内状況や実施イベント、屋内広場利用プログラム等の情報を随時発信した。このほか、広報さっぽろ、マスメディアやフリーペーパー等に積極的に情報提供し、利用促進に努めた。

(3) 冬期間における公園活用の促進

屋内広場アリーナは、雪に閉ざされる冬期間でも土のグラウンドで運動やスポーツができる施設であり、その効果を最大限に発揮できるよう日常整備し、利用促進に努めた。また、屋外の雪上での運動・レクリエーションとして、2.2kmの歩くスキーコースのほか、スキースロープやソリ滑り場を設置・開放した。また、自主事業として

スノーモービルでタイヤチューブを牽引する「わいわいタイヤチューブ」を運行し、利用促進を図った。このほか、多目的広場で、札幌市西区スポーツ推進委員会主催の「第16回西区民雪合戦大会」に協力した。（参加者数 200 人）

■自主事業による開催イベント等一覧

イベント名	開催月	参加者数	イベント名	開催月	参加者数
①ペットボトルでハングングプランターづくり	5 月	26 人	⑲MOKU MOKU PARK	12 月	10 人
②かけっこ教室	5 月	59 人	⑳しめ縄リースづくり	12 月	14 人
③自転車教室	5 月	60 人	㉑門松づくり	12 月	9 人
④ノルデックウォーキング講習会(2 回)	6,10 月	33 人	㉒正月飾りづくり	12 月	6 人
⑤星空観望会(2 回)	7,10 月	83 人	㉓クリスマスエレクトーンコンサート	12 月	71 人
⑥のうし夏まつり	7 月	2,837 人	㉔新春凧づくり	12 月	11 人
⑦親子でキッズヨガ	7 月	6 人	㉕初めてのスキー教室	1 月	5 人
⑧交通安全子ども自転車教室	7 月	13 人	㉖スノーキャンドルの灯りをともそう	1 月	—
⑨琴似発寒川さかなウォッチング	7 月	24 人	㉗歩くスキー初心者講習会	1 月	4 人
⑩公開さかな調査	8 月	38 人	㉘春植えの花を種からそだてよう	1 月	17 人
⑪素焼き鉢で風鈴づくり	8 月	37 人	㉙苔玉づくり	2 月	37 人
⑫忍者になって修行だ!	9 月	9 人	㉚ナチュナルリースづくり	3 月	19 人
⑬青空ヨガ	9 月	4 人	㉛ペタンク初心者講習会	3 月	9 人
⑭のうし秋まつり	9 月	5,105 人	㉜歩くスキー貸出し	1～3 月	353 台
⑮ハロウィンリースづくり	10 月	20 人	㉝わいわいタイヤチューブ運行	1～3 月	1,891 人
⑯サケ観察会(2 回)	10,11 月	210 人	㉞ソリ貸出し	1～3 月	240 台
⑰パークゴルフ初心者講習会	12 月	27 人	㉟屋内広場パークゴルフ開放	12～3 月	857 人
⑱クリスマスリースづくり	12 月	47 人			

2 市民協働による公園管理・利活用の推進

市民参加・協働の推進のため、ボランティア団体の活動を支援した。「カポック」は、毎週月曜日に屋内の観葉植物や園内花壇の植栽・維持管理、花苗育成などの活動を行った。公園での子どもの外遊びを支援する「農試公園であそぶか〜い」は、毎週金曜日にプレーパークの開催など、公園での外遊びを推進するため連携して取り組んだ。

3 利用料金収入

農試公園は、西区唯一の運動公園として、快適な施設利用と良好なコンディションの維持に努めた。屋内広場アリーナは、不陸整備を毎月第4月曜日に、アリーナの耕耘を年3回(BC面は年2回)実施するなど、快適な利用環境の維持に努めた。

利用料金収入合計 18,752,420 円

(農試公園野球場・硬式テニスコート・軟式テニスコート・屋内広場アリーナ、発寒西陵公園硬式テニスコート)

手稲稲積公園・北発寒公園・前田公園

1 普及啓発・利用促進事業等

(1) 健康づくりやレクリエーションを通じた交流の場とスポーツの拠点としての価値の向上

手稲稲積公園は、手稲区唯一の運動公園として、公園の緑に囲まれた環境にあるスポーツ施設を良好な状態に管理することに努めた。特に四季を通じた市民の健康づくりや交流の場としての魅力を高めるため、スポーツへの新たな参加機会の提供としてノルディックウォーキングやテニスの講習会を、また交流の場の創出として子どもや主婦層などを対象としたイベントや講習会を行った。

■自主事業による開催イベント・講習会の一覧

月日	名称	参加者数
9/26	①テニス講習会	4人
10/23	②ハロウィンリースづくり講習会	8人
10/29	③ノルディックウォーキング講習会	7人
11/19	④プリザーブドフラワーアレンジメント講習会	2人
1/28	⑤冬のプレーリーダー講習会	10人
1/28	⑥MOKUMOKU4 冬のプレーパーク	24人

2 地域との連携・市民協働事業等

3 公園とも周辺に多数の町内会がある住宅地に位置する公園であることから、特に地域との交流と相互理解、町内会や近隣施設等との連携協力を重視した公園管理運営を行った。

(1) 市民に親しまれ活用される公園づくり

地域の中で公園の果たす役割を考え、公園の価値を高めていくことを目指し、町内会、まちづくりセンター、幼稚園、学校、町内会等の参加により「手稲稲積公園利活用協議会」を継続して開催し、公園運営への理解を深めてもらうとともに、意見・要望等を傾聴して管理の参考とした。

また、手稲稲積公園・北発寒公園のパークゴルフ場では、ボランティア活動の取組として、同好会団体と協働でコース管理等を実施するとともに、利用者の声を直接聞き、管理運営のレベルアップを図った。

(2) 地域への貢献と近隣との連携・協働を目指した公園づくり

地域への貢献として、近隣の小中学校等の教育機関の「体験」や「学び」の場としての公園利用に積極的に協力するとともに、地域のイベントなど、町内会や関係団体との連携・協働により、地域に根ざした公園利用の促進を図った。

■地域との連携等の実績一覧

月日	連携	内容	参加者数
6/21	北海道科学大学、前田中央小学校連携授業への講師派遣	公園利用やプレーパークについての講演	46人
6/26	手稲区児童会館合同行事への職員派遣	手稲区児童会館合同行事への運営協力	600人
6/27	稲積小学校3年生 花苗植込実習	休養広場花壇に花苗を植える体験実習	52人
8/6	前田ふれあいまつりへの協力	前田連合町内会主催の夏まつりに協力し、体験工作等の催事出店	680人
10/12	木工クラフト工作会(近隣児童会館との共催)	園内で採取した植物材料を使用した木工作の体験	25人

3 利用料金収入

テニスコートは、競技団体の大会利用に合わせて、休憩所等の開・閉場時間や大会の使用コート、利用時間等に柔軟に対応して運営に協力し、施設利用の促進につなげた。

運動施設の日常管理においては、老朽化に伴うコンディションの悪化に対処しながら整備を行うなど、快適な施設利用に努めた。

利用料金収入合計 8,255,090 円(手稲稲積公園硬式テニスコート・野球場、北発寒公園硬式テニスコート・軟式テニスコート・野球場、前田公園硬式テニスコート・野球場)

前田森林公園・星置公園・明日風公園・山口緑地

1 普及啓発・利用促進事業等

前田森林公園では、カナルをはじめとした景観の維持や自然環境保全に留意した維持管理を行い、ボランティア団体等との連携による環境学習やイベントの開催、携帯端末等の情報発信ツールの活用による広報を行った。このほか、山口緑地を含むパークゴルフ場では、地域団体との連携による講習会や交流大会を開催するなど、公園・緑地の利用促進に努めた。

(1) 魅力ある公園づくりと情報発信

1) 修景施設を生かした賑わいの創設

前田森林公園では、壮大なポプラ並木や青空が映り込む美しいカナル、年間を通して楽しめる花木などの魅力発信に努めたほか、道内最大級の大パーゴラ(藤棚)のフジを適切に管理するとともに、開花に合わせたイベント「ふじまつり」を開催した。(参加者数 1,850 人)

2) 情報発信・共有ツールの活用や対話による地道な誘致活動

各公園・緑地に適したイベントや講習会を企画・開催し、情報発信・共有ツールとして Twitter を積極的に活用した。また、前田森林公園が全国規模のプロモーション映像撮影の候補地となった際、制作・撮影クルーを現地案内して魅力を直接伝えた結果、撮影の誘致に成功するなど、映像の波及効果による今後の来園増につながった。

(2) 公園の利用促進につながる自主事業

公園の魅力を高め、資源を活用して利用促進を図ることを目的とした各種自主事業を企画・実施した。

■利用促進事業一覧

月 日	利用促進事業	参加者数
6/4,5	①ふじまつり	1,850 人
11/11,12,13	②森のクリスマスリースづくり	17 人
11/30	③リース作り講習会(明日風町内会)	28 人
12/17,18	④ミニ門松づくり講習会	14 人
1/5～3/5	⑤歩くスキーレンタル	1,810 人
1/7～3/5(19 日間)	⑥スノーラフティング	415 人
1/14,22	⑦クロスカントリースキー初心者講習会	60 人
1/15～2/26(7 日間)	⑧クロスカントリースキー簡単初心者講習会	32 人

2 市民・団体との協働、学校教育での公園利用への対応

市民が気軽に親しみをもって公園を活用できるよう、ボランティア団体によるイベント開催や公園の資源を生かした活動を支援した。

(1) 公園フィールドでのボランティア活動

前田森林公園で活動するボランティア「凸凹クラブ」と連携して、園内植物の廃材を使った木工工作が体験できるトンカチ広場の運営や、自然観察会を開催した。また、地域企業や市民にカナルを含めた公園の清掃活動に参加を募り、良好な公園景観の維持と市民参加・協働の推進に努めた。明日風公園では、花壇管理ボランティアに対して資材等を提供するなど、活動の支援を継続して実施した。

- ・前田森林公園凸凹クラブ 連携による普及事業の開催、公園イベントへの協力など
トンカチ広場 12 回(うち 1 回は雨天中止) 280 人 自然観察会 5 回 107 人
- ・市民ボランティアによるカナル清掃 3 回 37 人
- ・手稲区特定郵便局清掃活動 活動場所提供 120 人
- ・明日風フィオーレ 明日風公園花壇管理への資材(花の種子等)の提供

(2) 教育機関の公園フィールドでの活用

近隣の小中学校及び高等支援学校からの実習を受け入れたほか、公園を活用した環境教育に講師等で

対応・協力した。

前田森林公園

- ・札幌市立前田北小学校 58 人 1 日
- ・札幌工科専門学校 1 人 10 日間
- ・北海道札幌高等養護学校 4 人 5 日間
- ・札幌市立稲陵中学校 12 人 1 日

星置公園

- ・札幌稲穂高等支援学校 11 人 2 日間
- ・札幌市立星置東小学校 1 時限

(3)その他の団体等との協働

- ・フライングディスクドッグ大会 FDS(競技団体)との連携により開催 約 80 人
- ・プレーパーク 手稲プレーパークの会による開催に協力 9 回 352 人
- ・スノーキャンドルイベントへの参加 約 70 人

3 利用料金収入

パークゴルフ場では、地域団体と連携して初心者講習会を 2 回、交流大会を 4 回開催し、新たな利用層の開拓にも取り組んだ。また、良好なコースコンディション維持のため、日頃からきめ細かな管理に努めた。

利用料金収入合計 24,394,720 円(前田森林公園パークゴルフ場・野球場・球技場、星置公園野球場・テニスコート、明日風公園テニスコート、山口緑地西パークゴルフ場・東パークゴルフ場)

厚別公園

1 普及啓発・利用促進事業等

市民の健康増進及びスポーツの普及振興を図ることを目的として、運動教室やスポーツ講習会、トレーニングルームのリニューアル、冬期の歩くスキーコースの整備等を実施した。また、施設内にカフェコーナーやキッズコーナーを新設し、利用者の利便性向上を図った。

(1)各種運動教室の実施

高齢者を対象とした「いきいき健康体操」、小学生を対象とした「キッズバレエ」など、幅広い年齢層が参加できる運動教室を計 23 講座開催し、健康増進と施設の有効利用に努めた。

(2)陸上クラブの設立

競技者が安心して活動できる環境づくりや、各競技の普及及び発展に貢献しながら、地域の新しいコミュニティの構築や地域振興、さらに参加者の競技力向上のみならず、心の成長も目的とした事業として、小学生を対象とした陸上クラブ AAA(Atsubetsu Athlete Academy)を(一社)A-bank 北海道と連携して、設立・運営した。

(3)スポーツ講習会等の実施

気軽にスポーツにふれあう機会の提供や、運動を始めるきっかけづくりのため、初心者を対象としたスポーツ講習会を実施したほか、「さっぽろスポーツ DAY」としてトレーニングルームと競技場の無料開放を行った。

- ・厚別スポーツクリニック 121 人
- ・歩くスキー講習会 17 人
- ・ノルディックウォーキング講習会 22 人
- ・さっぽろスポーツ DAY 201 人

2 市民参加・協働等

公園周辺の環境整備のため、近隣住民と清掃活動を実施した。また、近隣小学生によるプランターの花植え、中学生の職場体験、「厚別フラワーボランティア」など、市民参加・協働の機会を設け、地域の方々の積極的な公園の利活用に努めた。

- ・厚別フラワーボランティア 19 日 延べ 79 人
- ・ラブアース・クリーンアップ in 北海道 8 人
- ・上野幌西小学校 5 年生 プランター花植え 32 人
- ・中学生職場体験 3 校 10 人

3 他団体等との協働

「秋空のマルシェ」(9月18日開催)では、(株)コンサドーレ札幌が協力するサッカー教室、アロマキャンドルづくりやヨガ教室、(株)NACの協力によるボルダリング体験、新篠津村や長沼町の野菜直売等を実施し、利用促進に努める中で、特に新規来園者の開拓を図った。

また、厚別区の「新さっぽろ冬まつり」の企画会議に参加し、広報やイベント実施に協力したほか、共催事業として「厚別公園冬フェスタ」を開催し、屋外競技場施設グループ(円山総合運動場、麻生球場)の協力を得てイベントを運営した。

・秋空のマルシェ 1,942 人来場

・厚別公園冬フェスタ 983 人来場

4 利用料金収入

利用料金収入合計 17,020,979 円(主競技場、補助競技場、会議室、トレーニングルーム)

西岡公園・西岡中央公園

1 普及啓発・利用促進事業等

西岡公園を「水と緑に恵まれた多様な生物の生育・生息地」、「環境学習の活動拠点」として、西岡中央公園を「多様な利用のできる地域の公園」として位置付け、地域や市民、専門家、ボランティア団体との連携・協働による事業展開に努めた。

(1)リアルタイムな自然情報の発信

西岡公園管理事務所の展示室では、四季折々の公園を自作展示物で紹介し、最新の園内自然情報を掲示板等により公園を訪れる市民に提供した。また、公式ウェブサイトでも、常に最新の自然情報、イベント情報の発信を行い、自然観察や体験等をはじめ、公園の利用促進に努めた。

(2)自然や生物に関する講座・観察会等の開催

西岡公園では夏期にヘイケボタルが羽化・繁殖しており、生態と自然環境との関係を学び、繁殖を妨げない観察方法の普及を目的とした観察会を実施した。また、園内の生物に関する各種の講座や、カルチャーナイトの企画としての夜間園内観察などを開催し、自然や生物への関心と生物多様性保全への理解を深める取組を展開した。

(3)子どもの外遊びの推進

西岡公園の豊かな自然環境を生かし、子どもたちが自由な発想で遊びをつくる場として、プレーパークを5回開催した。ボランティア団体「遊木森森」と連携して、季節に応じて子どもが生み出す遊びをサポートした。

2 地域との連携・市民協働事業等

(1)西岡公園におけるボランティア団体の活動とサポート

西岡公園では6つのボランティア団体が活動し、木工作、植物調査、公園ガイド、プレーパーク運営、花壇管理など各団体の活動目的に沿って様々なイベントを協働体制で開催するなど、各団体との間に構築された良好な関係の維持と、継続して活動しやすい環境づくりに努めた。

10月には、ボランティア6団体の協力により、プレーパークや自然観察会、木工クラフトなど公園の自然を活用したイベント「にしおかピクニック」を開催し、多くの参加者に公園の魅力を提供した。

■ボランティア団体との協働によるイベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①子りす工房	101 人	④にしおかピクニック	720 人
②ガイドウォーク	225 人	⑤かんじきウォーク	41 人
③プレーパーク	372 人	⑥スノーキャンドルにあかりを灯そう	150 人

(2) 西岡中央公園における地域ボランティアとの協働

パークゴルフ場のコース管理と多目的広場の管理を行う2団体が活動し、協働で園内施設の維持管理を実施したほか、利用者の意見・要望等を直接聴取することについて取り組んだ。

3 環境教育・自然環境の保全・調査

西岡公園では、子どもたちによる1年間の調査活動参加者を募集し、多様な水辺の生きものを対象とする「西岡さかな組」と、一湖沼におけるトンボの種数が北海道で一番多い西岡公園のトンボを対象とした「西岡ヤンマ団」について、それぞれ調査の実施から成果を広く公開する活動報告展・報告会までを年間プログラムとして設定して活動した。

これらの活動に対して、ヤンマ団が「さっぽろ環境賞(札幌市長賞)」、「道新地域げんき大賞」、環境省の「子どもホタルエンジャー2016(水環境保全賞)」を受賞し、さかな組も「コカ・コーラ環境教育賞(優秀賞)」、日本水環境学会北海道支部の「クリオネ賞」と受賞が相次ぎ、長年の活動の成果が各方面から認められたことに加え、広く市民に対して西岡公園での活動のPR、公園の魅力の発信、環境保全の啓発等につながった。

■西岡さかな組・ヤンマ団の活動

団体名	活動日数、延べ人数	活動内容
西岡さかな組	17日、115人	水生生物の調査、報告展、報告会
西岡ヤンマ団	19日、317人	トンボの調査、標本作り、報告展、報告会

4 利用料金収入

シーズン前の除雪や雪割り作業により開放日を早めたほか、利用状況に合わせた点検、清掃を行うなど、利用促進に努めた。

利用料金収入合計 531,200 円(西岡中央公園テニスコート)

札幌市豊平川さけ科学館

1 普及啓発・利用促進事業等

豊平川をはじめ札幌市内の身近な川に遡上・産卵するサケをより多くの市民に見ていただき、その豊かな自然体験が心の財産となるよう、観察会の実施や公式ウェブサイト・ブログによる観察情報の発信、また館内では河川でのサケ観察につながる展示解説を実施した。このほか、市内に生息する水辺の生き物の生体展示等により、生物多様性保全の普及啓発に取り組むなど、さけ科学館の価値を高める事業の実施に努めた。

(1) 市民にとって魅力あるさけ科学館づくり

1) 楽しく見学し、学べるさけ科学館

サケや市内に生息している水辺の生き物等を、子どもでも楽しく学べるように、親しみやすいキャラクターを活用し、分かりやすく伝える展示物の作製や解説を行った。また、サケ親魚・受精卵・発眼卵・稚魚をより多くの方に見ていただけるよう、季節展示の調整に努めた。(年間入館者数 59,335 人)

2) サケの魅力を生かしたイベント・学習の実施・情報発信

「サケ稚魚体験放流」は、ゴールデンウィークにサケにふれあう体験行事として市民に一層定着し、3日間で3,236人が参加した。サケ学習の指導・協力としては、小学校でサケの卵を稚魚まで飼育するサーモンスクールのほか、校内にふ化飼育施設を持つ東白石小学校に対して、サケの遡上観察、人工受精から卵・稚魚の育成、河川放流までの一連の学習をサポートした。

9月には、サケに関する知識や体験をより親しみやすく身近な形で提供することを目的として、子どもたちが楽しく学べる体験プログラム等を多数盛り込んだイベント「さっぽろサケフェスタ 2016」を開催した。(来場者数 3,102 人)

これらの行事・イベントでは、通常の広報手段に加え、専用の広報ポスター、チラシ等を製作・配布し、広く事前PRに努めた。

このほか、サケが遡上・産卵する札幌市内の河川で観察会を実施し、サケの見つけ方や産卵行動、産卵環境、ホッチャレの役割などについて解説した。

- ・琴似発寒川サケ観察会(2回) 210人
- ・豊平川サーモン・ウォッチング 20人
- ・星置川でサケを見よう 69人

3) その他の教育普及イベントの実施

サケや水辺の生き物に興味を持っていただくために、来館者が事前の申込みなしで気軽に参加できるものから、じっくりと学ぶことのできる実習まで、多様なニーズに対応した各種体験イベントを企画・実施した。

■体験イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①サケたちのエサやり体験(16回)	876人	⑦琴似発寒川さかなウォッチング	24人
②サケのいない時期のサケ教室(7回)	195人	⑧公開さかな調査	38人
③知る・見る、カニさん、ザリガニさん	109人	⑨真駒内川ミニ水族館	29人
④真駒内川をきれいにしよう	4人	⑩わくわく受精体験(4回)	196人
⑤北の沢川さかなウォッチング(2回)	33人	⑪サケ採卵実習	22人
⑥星置川さかなウォッチング	14人	⑫わくわく体験サケタッチプール(4回)	404人

(2) 他団体と連携した活動

1) 地域連携を軸とした、開かれた施設管理と活動の推進

水辺環境の情報を広く発信するため、地域住民・団体との連携を進め、運営の活性化に努めた。特に多数の参加がある春と秋のイベントについては、地域の自然系活動団体や大学、研究機関、町内会などと連携して開催した。また、相手先の団体等が実施するイベント・講座等にも協力することで、相互の活動の発展に努めた。

実習やイベント、飼育、調査などをサポートする「さけ科学館ボランティアの会」は30年の歴史を有し、現在も学生等にとっては社会勉強の場として、一般市民には生涯学習や地域社会への参加の場として、有意義な活動を継続して行った。

2) 市民団体「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」と連携した、豊平川の野生サケ保全活動への取組

過去の調査により、約7割の個体が自然産卵由来の「野生サケ」であることが判明した豊平川において、市民団体「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」と連携して、野生サケの優先的保全に継続して取り組んだ。サケ稚魚の放流数をいったん減らし、野生魚と放流魚の割合を継続的にモニタリングして順応的に管理する手法を導入し、情報公開や市民参加の調査、バスツアー、フォーラムの開催など、市民協働で活動を進めた。

2 調査・研究等

(1) サケ遡上親魚の捕獲・産卵状況調査

サケの遡上状況の確認のため、一部のサケ親魚を網等で捕獲し、体長・年齢などを記録した。また、河川での産卵状況も併せて調査し、産卵箇所数からサケの遡上数を推定した。調査と並行して、産卵場所・周辺の状況を巡視確認し、豊平川やその他市内河川でのサケ産卵環境の把握に努めた。

調査の結果は、サケの観察情報としてブログ・館内掲示等で随時公開したほか、河川内の工事に先だって、サケへの影響に配慮した工法・期間等を検討する際の基礎資料として活用された。

■サケ遡上・産卵状況調査の結果

河川	産卵数	推定遡上数	河川	産卵数	推定遡上数
豊平川	605箇所	1,210尾	星置川	101箇所	202尾
琴似発寒川	123箇所	246尾	濁川	5箇所	10尾

(2) 札幌の水生生物等の生息状況調査

札幌市内・周辺の水辺において、生物の生息状況の調査を継続的に実施した。調査にあたっては、地域住民や活動団体、他分野の研究者などと積極的に連携し、また、水辺を含む広い視点での環境の把握に努めた。

58 地点で調査を実施し、計 47 種の魚類・甲殻類を確認した。開館当初から 30 年以上に及ぶ調査の結果は随時整理・公開し、札幌の水辺における生物多様性保全に向けた基礎資料として活用した。

(3) 大学・研究機関等の調査・研究への協力

大学や研究機関などからの調査や実験への協力、調査記録の提供など、計 59 件の依頼があった。これらに対して積極的に対応し、また、研究等の成果をさけ科学館の教育普及に活用した。

主な協力先：酪農学園大学、札幌河川事務所、北海道大学、北海道生物多様性課、北海道立衛生研究所
(一社)北海道栽培漁業振興公社、(地独)青森県産業技術センター、円山動物園、東海大学等

月寒公園・吉田川公園

1 普及啓発・利用促進事業等

平成 24 年から行われている月寒公園の再整備工事により、一部利用できない公園施設がある中で、各種のイベントを実施した。また、再整備を検討する経緯の中で市民により設立された月寒公園市民協議会とは、協働により多様なイベントを企画・開催し、地域に親しまれる公園づくりに努めた。新設された複合遊具やテニスコート等の有料施設の人気が高まる中、観察会やヨガなどを積極的に実施することで、施設や道具を使わない、多様な公園の楽しみ方を提案できた。

(1) パークライフをコンセプトとした新しい公園利用の提案

再整備計画のコンセプトである「パークライフ」の実現のため、イグルーづくりやヨガなど、新しい公園の楽しみ方を提案するイベントを実施した。また、11 月には市民協議会と協働で「月寒公園ピクニック」を開催したほか、冬期に地域連携を目的としてスノーキャンドルにあかりを灯す「月寒あそんどル！」を開催した。

(2) 地域のさまざまな団体と連携したイベントの企画

市民協議会の構成メンバーである「さわやかノルディック・ウォーク倶楽部」と協働でノルディック・ウォーク体験会を実施するなど、地域に根ざした活動を展開している団体と良好な関係を築きながらイベントを企画開催した。

(3) スポーツや健康づくりの機会の提供

「かけっこ教室」や「パークゴルフ大会つきさっぷ杯」など、公園施設を活用した講習会、大会等を実施した。小学生からシニアまで幅広い世代が参加し、地域のスポーツと健康づくりの場として、公園の活性化につながった。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①ノルディック・ウォーク体験会	27 人	⑧野の花を植えよう	16 人
②月寒公園かけっこ教室	29 人	⑨パークゴルフ大会つきさっぷ杯	60 人
③月寒公園野鳥観察会	19 人	⑩月寒公園ピクニック	16 人
④つきさむパークヨガ	54 人	⑪月寒あそんどル！	40 人
⑤MOKUMOKU PLAY 樹木の覚え方講座	20 人	⑫CAP おとな向けワークショップ	20 人
⑥親子でチャレンジ！月寒テニス教室	2 人	⑬イグルーを作ろう！	57 人
⑦つきさむパークライフワゴン	64 人	⑭吉田川公園生き物観察会	19 人

2 市民団体・活動団体との連携、市民協働

市民協議会と連携し、月寒公園の管理運営を協働で進めるために、定期的に会議を行った。また、除草や花壇の管理を行うボランティアを設立・支援した。

■ボランティア団体による活動一覧

団体名	活動日数、延べ人数	活動内容
月寒公園ファンクラブ(市民協議会)	4日、延べ 48人	市民との協働による月寒公園の利活用推進
月寒公園ボランティア	23日、延べ 79人	シバザクラエリアの除草、時計塔周りの花壇植栽
東月寒レオンズ (吉田川公園多目的広場ボランティア)	180日、延べ 400人	多目的広場の管理運営
吉田川公園パークゴルフ振興会	160日、延べ 180人	パークゴルフ場の管理運営

3 利用料金収入

利用料金収入合計 6,212,360 円

(月寒公園高台野球場・テニスコート・パークゴルフ場、吉田川公園テニスコート)

旭山記念公園

1 普及啓発・利用促進事業等

公園の豊かな自然環境と素晴らしい眺望について、タイムリーな情報発信を心掛け、来園者のニーズを反映させた事業を展開して新たな利用者の獲得を目指し、公園の価値と魅力の向上に努めた。

(1) 公園の四季に合わせた自然情報の発信

札幌市街を一望できる眺望と、藻岩山等と隣接し、豊かな自然環境を有する公園として、四季の自然景観、動植物の情報をタイムリーに収集・発信することで来園者へのサービス向上を図った。特に公式ウェブサイトでは、年間 139 件の情報を発信した。(閲覧数 60,612 件)

(2) 公園で見られる野鳥に特化した観察会

「野鳥観察会」を旭山記念公園市民活動協議会との共催で毎月定期的実施した。

(3) 子どもたちの“感覚”を養う自然体験型プログラムの展開

子どもたちが自然と触れあいながら自由に遊ぶことで好奇心や創造力を培う場として、森の木々を利用した木登りや綱渡り、風倒木を再利用する木工体験、昆虫や動植物の観察会など、自然体験型プログラムを企画・実施した。

■普及啓発・利用促進イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①早朝野鳥観察会	162人	⑦森の学校	29人
②定例自然観察会	45人	⑧冬の生き物さがし	21人
③カルチャーナイト 2016 In 旭山記念公園	13人	⑨ノルディック・ウォーキング体験講習会	16人
④こどもサマーテーリング(共通)	25人	⑩ネイチャーカフェ ～バードリスニングのすすめ～	9人
⑤公園のチョウを訪ねてみよう	15人	⑪スノーシュー自然観察会	6人
⑥森のリースづくり	6人		

2 市民参加・協働等

近隣住民や児童からの要望を受けて、市民活動協議会構成団体や動植物の専門家との協働で、子ども向けの環境学習事業を企画・開催した。

このほか、イベントの広報や活動について、近隣町内会に協力を呼びかけるなど、地域との連携に努めた。

また、これまで市民活動協議会が運営母体となって実施してきたイベントを協働で開催することにより、イベント内容の充実を図り、事業の継続的なサポートにもつながった。

■旭山記念公園市民活動協議会との主な協働イベント一覧

イベント名	参加者数
WONDER FOREST IN さっぽろ	100 人
夏の星空観察会	50 人
森のフェスティバル	71 人
冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう！2017	23 人
冬のフェスティバル	62 人

他 1 国営公園等受託事業

滝野すずらん丘陵公園運営維持管理業務の代表団体として、公園・園内施設の利用対応、イベント等の企画・実施のほか、管理計画に従い植物・園内施設等の維持管理業務を実施した。

1 滝野すずらん丘陵公園運営維持管理業務の総轄

- (1) 園内の総務・経理事務
- (2) 入園料の徴収事務
- (3) 植物管理・施設管理・園内及び建物清掃
- (4) 入園者数 年間入園者数 551,166 人

2 利用指導及び利用サービス等

- (1) 利用促進事業
 - すずらんメール発行 4 回／年（総配布部数 842,000 部）
 - イベントチラシ（新聞折込広告） 3 回／年（総配布部数 1,608,000 部）
 - 道内外旅行情報誌への広告掲載及び旅行博覧会での P R 活動等
- (2) 滝野の森における利用プログラム
 - 開催回数 291 回 延べ 12,631 人
- (3) ホームページのアクセス件数
 - 3,091,681 件
- (4) ボランティア活動
 - ① フラワーガイドボランティア
 - ・登録人数 31 人（延べ 596 人）
 - ・活動期間 4 月 24 日～10 月 10 日（170 日間）
 - ・活動内容 ガーデンツアー、巡回ガイド等
 - ・参加者数 2,673 人
 - ② 滝野の森クラブ
 - ・登録人数 48 人（延べ 1,470 人）
 - ・活動期間 4 月 6 日～3 月 29 日（206 日間）
 - ・活動内容 ガイドツアー、スノーシューガイド、森の楽校等
 - ・参加者数 3,409 人
- (5) 主なイベント

① 星空観察会	5 月 14 日～9 月 24 日の間の第 2・第 4 土曜日
② シラネアオイまつり	5 月 8 日～5 月 22 日
③ 第 6 回北海道キャンピングフェア	5 月 21 日・22 日
④ チューリップ・すずらんフェスタ	5 月 21 日～6 月 12 日
⑤ 冒険遊び場きのたんの森	5 月 8 日～10 月 19 日の間の第 2・第 4 土曜日 12 月 23 日 1 月 8 日～3 月 26 日の間の第 2・第 4 土曜日
⑥ LIGHT UP NIPPON HOKKAIDO in 国営滝野すずらん丘陵公園	8 月 11 日
⑦ コスモスフェスタ	9 月 10 日～10 月 2 日
⑧ 札幌南マルシェ&吹奏楽コンサート d a y !	9 月 18 日
⑨ 滝野 d e 秋満喫 d a y	10 月 2 日
⑩ 北海道応援フェスタ	10 月 9 日・10 日
⑪ 滝野スノーフェスティバル（たきの冬花火・夜間開園ほか）	2 月 4 日・5 日
⑫ 森フェス ～2017 Winter～	2 月 19 日

収 1 公園施設等附帯収益事業

公園緑地・施設利用者の利便性と市民サービスの向上及び継続的な公益目的事業の展開とその充実を図るため、公園緑地・施設内における便益施設の運営等を行った。

1 常設売店の運営

公園施設等で売店施設を運営し、オリジナル商品の販売や、公園緑地の多目的利用をサポートする備品の貸出し等を行った。また、百合が原公園、豊平公園、川下公園等では、札幌市の気候条件と季節に合った鉢花や、植物等に関する書籍、園芸用品等を販売した。

(1) 営業場所

大通公園、中島公園、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、川下公園、厚別公園、豊平公園、平岡公園、平岡樹芸センター、農試公園、手稲稲積公園、前田森林公園、旭山記念公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、西岡公園、オンライン・ショップ

(2) 商品

鉢花等植物、園芸用品、オリジナルグッズ、スポーツ用品、用具レンタル（スポーツ用品、照明器具、音響設備、楽器）等

(3) 収入金額

71,296,325 円

2 臨時売店の設置運営

売店施設のない公園緑地及びイベント開催時等に臨時売店を設置し、営業した。

(1) 営業場所

大通公園、中島公園、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、川下公園、厚別公園、平岡公園、平岡樹芸センター、農試公園、前田森林公園、山口緑地、創成川公園、旭山記念公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、西岡公園

(2) 商品

飲食物、植物、絵葉書、しおり、その他公園施設関連商品等

(3) 収入金額

12,996,803 円

3 自動販売機の設置運営

公園緑地・施設に自動販売機を設置し、清涼飲料水、冷菓等を販売した。

(1) 設置場所

大通公園、中島公園、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、川下公園、厚別公園、豊平公園、平岡公園、平岡樹芸センター、農試公園、発寒西陵公園、手稲稲積公園、前田森林公園、明日風公園、山口緑地、創成川公園、旭山記念公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、西岡公園、西岡中央公園、清田公園、東雁来公園

(2) 収入金額

18,713,801 円

評議員会及び理事会の開催等

(以下は全て承認・議決された)

評 議 員 会

定時評議員会(平成 28年6月 20日開催)

議 題 報告事項

平成27年度事業報告

公園視察

決議事項

平成27年度決算承認の件

みなし決議(平成 29年3月 31日付)

評議員選任の件

監事選任の件

理 事 会

みなし決議(平成 28年4月 1日付)

専務理事選定の件

平成 28年度第1回理事会(平成28年5月 26日開催)

議 題 報告事項

代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について

決議事項

平成27年度事業報告承認の件

平成27年度決算承認の件

定時評議員会の招集及び提出議案の件

その他

公園の視察について

みなし決議(平成 28年12月 26日付)

給与規則の一部改正の件

平成 28年度第2回理事会(平成 29年3月 28日開催)

議 題 報告事項

代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について

決議事項

給与規則一部改正の件

平成 29年度事業計画書及び収支予算書の承認の件

監事候補者推薦の件

評議員候補者推薦の件

平成28年度事業報告

平成28年度事業報告には重要な事項について全て詳細に記載し網羅している。よって「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、定款第8条第1項第2号に定める事業報告書の附属明細書はない。